

略

賊

飛虫

屎

苗虫

入

ほう

葉まくり

し

の

こぬ

如し

小金虫

を

右都

〔古語拾遺〕

父御

御

其

以

売虫に似て、小なるをいふ歟、稻粟等の節を食ふ、故に出穂に至りて枯穂となる、

名をしらず、初の程は、至て小にして、其色赤く、蚤の飛が如し、蛻りてくり色に變じ、小蜘蛛

尻に似て、兩脇に飛虫あり、實盛虫ととも、に群集す、羽至て短し、是を防には油にし、かず

尺蠖の類にして、年に依て、苗代に群生し、葉末より食下りて、甚害あり、或は葉を包みて中

に入、後蛻りて羽生じ、飛事蠹虫の如し、

稻粟其外にも群集して、穂を吸ふ、故に秕となる、其害少なからず、

蠹の種類ならん、菜虫に似て、其色薄青く、稻粟等の葉に付て食ひ、後、口より糸を出

し、葉を卷て、其内に蟄す、大風あれば、巢を吹破りて、自ら除事あり、又は羽化て、蚊のうばの類

の小蝶となる、尤害淺し、

涌が如く生じて、稻葉の根を食ひ、大ひに害をなす、其色青白なり、長じて羽あり、羅の

如し、防方油にし、くはなし、

壹分位にして、甲に光りある羽虫にて、晝は稻株に手まりの如く集り、夜は散て、稻の莖

をくらひて、害をなす、

蝗をなべて、ウンカと唱る所多し、

昔在神代、大地主神、營田之日、以牛穴食田人、子時御歲神之子、至於其田、睡饗而還、以狀告

其、怒、依、教、奉、謝、御、歲、神、答、曰、實、吾、意、也、宜、以、麻、柄、作、持、持、之、乃、以

其、葉、掃、之、以、天、押、草、押、之、以、鳥、扇、扇、之、若、如、此、不、出、去、者、宜、以、牛、穴、置、溝、口、作、男、莖、形、以、加、之、

以、葱、子、蜀、椒、吳、桃、葉、及、鹽、班、置、其、畔、

仍、從、其、教、苗、葉、復、茂、年、穀、豐、稔、是、今、神、祇、官、以、白、猪、白、馬